



私立大学における海外留学プログラムの 現状とその特徴

——効果的な海外留学プログラム開発に関する一考察——

中 川 浩

概要 これまで、日本の大学ではグローバル人材の育成を目指し海外への視野を広げる留学の推進を行ってきたが、提供されているプログラムが学生の希望や目的に必ずしも一致しているわけではない。また、新型コロナウイルス感染症の流行により海外留学プログラムが約2年間中止となっていた今、学生がどのような理由や目的で留学を決意するのかなど意識調査を行う必要がある。よって本研究では、関東地方の私立大学生196名を対象にオンラインアンケート調査を実施しその結果を報告する。また、それらの結果をもとに学生のニーズに対応したより効果的で適切な留学プログラムを検討する。

キーワード 海外留学, 留学プログラム, 国際化, 外国語, TOEIC®リスニング&リーディングテスト

原稿受理日 2023年5月12日

Abstract This paper highlights the role of academic study abroad programs in promoting global citizenship and internationalization within Japanese universities, promoted by the Ministry of Education. However, with the COVID-19 pandemic disrupting government policies and international travel, many uncertainties needed to be addressed within university study abroad programs. In order to develop and offer an effective and appropriate study abroad program, the author conducted the online questionnaire survey and collected the data from 126 students at private universities in the Kanto region of Japan to evaluate their perceptions of study abroad. The results provide useful data to support and address the needs of Japanese university students.

Key words Study Abroad, Study Abroad Program, Internationalization, Foreign Language, TOEIC® Listening & Reading Test

1. はじめに

留学プログラムは、学生がグローバル・シチズンシップに関連する成果を達成するためのユニークな機会として認識されてきた (Douglas, Sano, & Rosvold, 2018)。また、これらのプログラムは、日本の大学における国際化を推進する上で重要な役割を担っており、文部科学省によって推進されている。新型コロナウイルス感染症 (以下、COVID-19) によるパンデミックがおきる以前より、日本政府は「大学の世界展開協力事業」や「スーパージョーナル大学創成支援事業」などの大学への大型補助金事業展開し、大学における人材育成に焦点をあて、国際交流や学生のキャリア形成、語学習得を促進させている。しかし、文部科学省の発表 (2015) によると、このような高度人材育成の基盤を確立させる事業を行っているにも関わらず、日本人留学生の数が2004年を境に減少傾向にあると発表している。

しかし、COVID-19 の流行以前、文部科学省の公式データでは、日本の大学生の海外留学者数は減少していた。6ヶ月以上の長期留学を選ぶ学生が減り、6ヶ月未満の短期留学への関心が高まっている傾向が見られた (Nowlan & Wang, 2018; Ota, 2018; OECD, 2016)。COVID-19 のパンデミックはさらに状況を悪化させ、2020年、2021年には多くの大学が留学を取りやめた。文部科学省によると、パンデミックの影響により、2020年の日本人留学者数は2018年と比較して98.6%も激減した。さらに OECD は、パンデミック時に390万人以上の留学生が大学や国境の閉鎖の影響を受けたと報告している (OECD, 2021)。結果、日本人の海外留学者数は2018年の115,146人から2020年にはわずか1,487人へと激減した (JASSO, 2020)。Organization for Economic Co-operation and Development (OECD) や Institute for International Education (IIE) によると日本人の海外留学者の数が減少していることを明らかにし、グローバル化が進む現状でこれらの留学に対する大きな阻害要因が近年の大学生への保守的かつ内向に影響と指摘している。よって COVID-19 のパンデミックは大きな不確実性をもたらし、政府の政策にも影響を及ぼし、まだ対処すべき様々な未知の要素を残している。したがって、変化する日本人学生のニーズを満たすために、留学プログラムの有効性を確保するために、アウトカムに基づく評価に焦点を当てることが不可欠であると述べている (Yonezawa & Shimmi, 2017)。

2. グローバル化における英語教育の現状

2002年に文部科学省が英語を使える日本人の育成のための戦略構想を発表したことを背景に、企業や私立大学による英語公用語化の動きが見られるようになった。2012年より文部科学省が「グローバル人材育成推進事業」と称し、大学教育に重点的な財政支援を行なっている(文部科学省, 2014)。これは、「大学グローバル化連携事業」や「スーパーグローバル大学創成支援事業」(文部科学省, n.d.)など、さまざまな取り組みによって実現されてきた事が理由と考えられる。また、2013年閣議決定された日本再興戦略内の若者の海外留学促進実行計画は、2020年までに日本の大学生の海外留学を6万人から12万人に倍増させるという壮大な目標を掲げ、私立財団法人日本学生支援機構(JASSO)による「トビタテ!留学 JAPAN」構想も導入された。この点からも、日本政府は社会経済的な背景に関係なく、若い世代の留学を後押しし、国際的な産業競争力の向上を積極的に行い、英語コミュニケーションを通じてグローバルに活躍できる人材の育成を図っている事がわかる。しかし、このような教育支援やグローバル化推進の中において、日本人の英語力の向上は著しく遅く、TOEIC® Listening & Reading Test (以下, TOEIC)の日本人の平均スコアは990点満点中574点で世界45ヶ国中31位と低い位置にいる(Educational Testing Service, 2021)。

このような問題に 대응するために、日本の多くの大学では英語教育に重点を置き、グローバル社会に対応できるような英語教育に力を入れている。その1つとして留学制度の見直しを図り、国際社会に対応できる人材育成のために海外に学生を派遣している。また、岩城(2020)によると大学は留学を通じた異文化体験を基盤に、学生の海外での鋭い国際感覚や異文化コミュニケーション能力の習得を推進している。

留学推進において近年の私立大学では、選択授業での Test of English as a Foreign Language (以下, TOEFL) 講座や TOEIC 講座を開講し、留学に必要な英語力の伸びを目的とした指導強化を図っている。さらに、海外で必要とされる十分な国際的コミュニケーション能力の向上をはかり、講義型の「受け身」授業からアクティブラーニングを取り入れた学生主体の「学び中心」の授業に重点が置かれている(永田, 2020)。また、パンデミック以前に行われた各国での調査では、あらゆる国籍の学生が海外留学をする動機が幅広く挙げられている。これには、語学力を伸ばしたい、外国を旅行して国際的な友情を築きたい、就職を希望する分野に関連するスキルを身につけたい、卒業後の就職活動

に役立つ外国の教育機関の資格を取得したい、研究分野の知識を深めたい、などの理由が挙げられた (Bikos, Manning, & Frieders, 2019; Lumley, 2020)。

パンデミックが収束に向かい、学生が再び留学を検討するようになった今、学生の留学に対する動機を検証することで、現在大学が提供している留学プログラムをより充実させることが可能となる。よって本研究では学生を対象に意識調査アンケートを行い、「留学したい理由」、「英語留学をためらう理由」を統計的に分析し、適した留学プログラム構築へ役立てる。

3. 調査概要

2021年4月から2022年3月までに私立大学の学生を対象に意識調査アンケートを行った。調査方法はアンケート回答方式で、属性の他、5段階評価、選択式、自由記述からなる (参考資料1参照)。被調査者数は196名であり表1に被調査者数の内訳を示す。

表1 被調査者数の内訳

学年	人数
1年生	106名
2年生	41名
3年生	39名
4年生	10名
Total	196名

4. 分析と結果

4-1. 留学したい理由

被調査者全員に対し「留学したい理由は何ですか」という問いに5段階評価で回答を得た。その結果を図2に示す。

図2から海外へ留学したい理由は「外国語が上手になりたいから」が5段階評価の平均値で4.61と最も高く、標準偏差も0.68という事から、被調査者の留学したい理由は語学習得目的であると考えられる。次いで「外国で生活してみたいから」(4.24)、「外国人の友

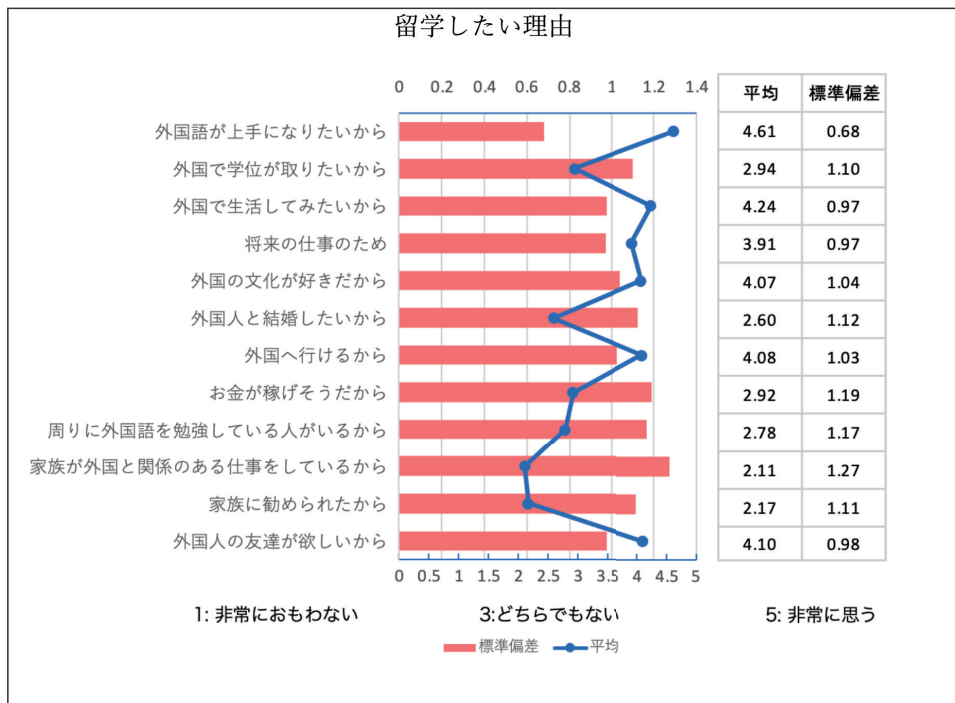


図2 5段階評価結果：留学したい理由

達がほしいから」(4.10), 「外国へ行けるから」(4.08) の平均値が高く、海外への憧れを理由に海外留学を望む回答が高かった。最も平均値が低かったものは「家族が外国と関係がある仕事をしているから」(2.11), 「家族に勧められたから」(2.17) であり、他人からの影響で留学を決断する傾向は見られない事がわかった。

4-2. 留学を見送る理由

被調査者全員に対し「留学を見送る理由は何ですか」という問に5段階評価で回答を得た結果を図3に示す。

図3から海外留学を見送る理由は「お金がかかるから」が5段階評価の平均値で3.90と最も高く、次に平均値が高いのは「自身の語学力に自信がないから」(3.76)であった。標準偏差も1.12と1.15という事から、被調査者の留学を見送る理由は経済面と語学力での面が影響していると考えられる。他にも、「プログラムに関する情報不足」(3.07)や、「就職活動に影響する」(2.93)などの理由の平均値が高かった。平均値が最も低かった項目は「留学するには年が若すぎるから」(1.81)で、留学を見送る理由に自身の年齢への影響や関連性はないと考えられる。

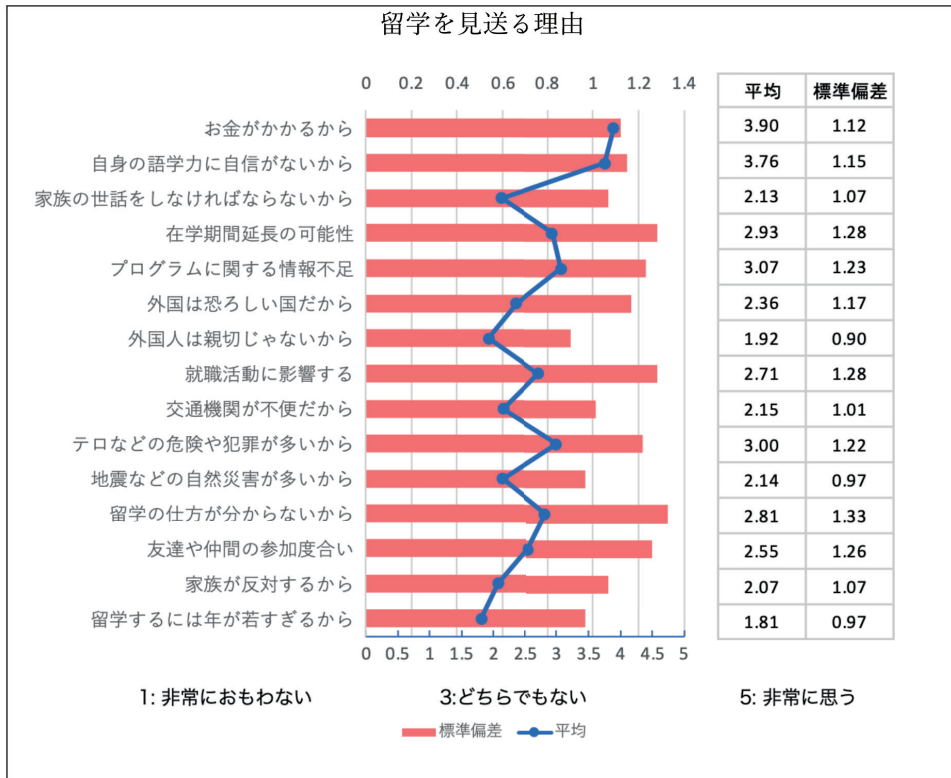


図3 5段階評価結果：留学を見送る理由

4-3. 外国語を学ぶ理由

被調査者全員に対し「外国語を学ぶ理由は何ですか」という問に5段階評価で回答を得た結果を図4に示す。

図4から外国語を学ぶ理由は「外国に行きたいから」が5段階評価の平均値で4.11と最も高く、次に平均値が高いのは「外国語で読み書きしたい」(3.94)であった。他にも、「新しい事への挑戦」(3.89)や、「外国の文化、スポーツ、歴史、自然にふれたい」(3.86)などの理由の平均値が高かった。平均値が最も低かった項目は「家の仕事で必要だから」(1.76)や「家族／親戚が外国人と結婚しているから」(1.82)等があり、家族が理由で外国語を学ぶことが影響していないと考えられる。

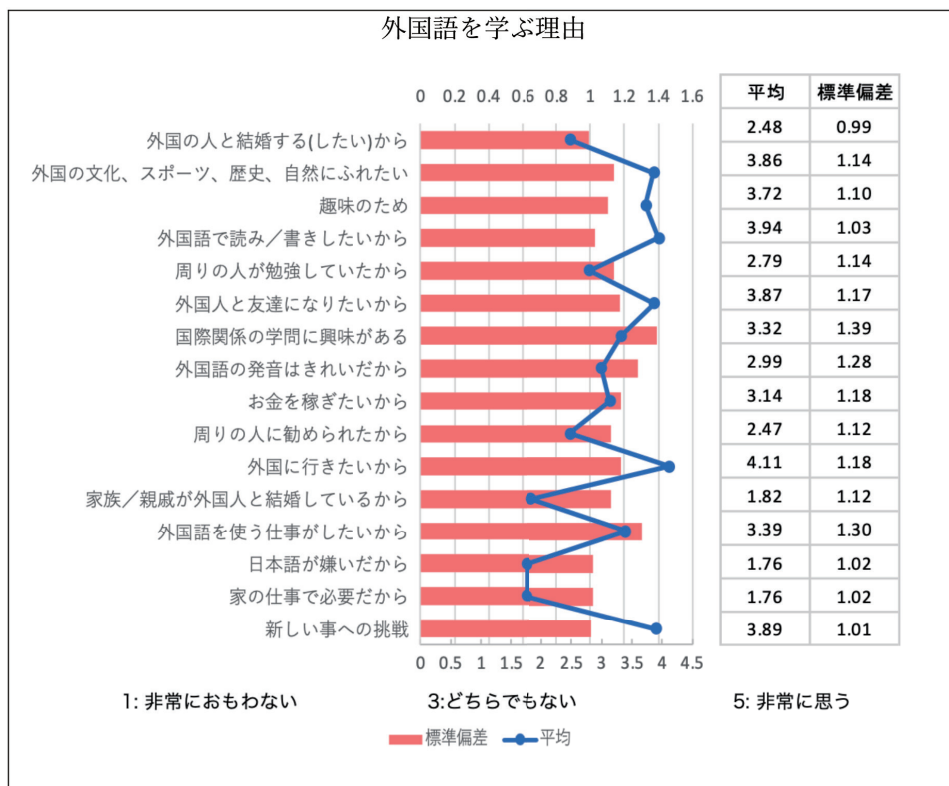


図4 5段階評価結果：外国語を学ぶ理由

5. 考 察

5-1. 留学へのプル要因

アンケート調査から、留学したい理由として「外国語が上手になりたいから」や「海外で生活したい」が挙げられる割合が高いことがわかった。一方留学をためらう一番の理由が経済的な理由ということが分かった。留学を諦める理由に学生の経済的な問題が生じているとなると、大学の経常経費または国際交流基金のような資産から奨学金や補助金を準備するのが一般的と言われている(太田, 2011)。しかしながら留学希望者が増えれば、原資にも限界が出てくることは一目瞭然である。限られた留学資金獲得が動機づけとなり語学力向上を図る留学プログラムは理想であるものの実際には一部の学生に目を向けた留学の促進になりかねない。よって学生の経済的な負担の軽減においては、大学の出来ることは留学資金の提供だけではないと考えて行かなければならない。関東圏の私立大学で

は、6ヶ月間の海外インターンシップ留学を世界最大のエンターテインメント企業である Walt Disney World Resort と提携して行っている。このプログラムでは有給インターンシップと授業を組み合わせしており、渡航費、授業料、生活費込みで50万円程度にて行える安価な利点がある。

その他にも、留学経費の軽減を目指す為には、留学先の選定を考慮すれば、安価な留学プログラムを学生に提供できる。アメリカ2021年度 College Board (College Board, 2021) によると Community college の全米平均の授業料は2年で3,800ドルである。留学生は州外授業料もしくは留学授業料が適応され、約3倍の9,500ドルが必要となるため、1年で支払う学費は約5,700ドルである。しかし、4年制の大学では授業料のみで38,000ドルを超えるため、1年間の授業料のみでも、約9,500ドル以上の費用がかかる。

近年、私立大学では米国やヨーロッパへの留学渡航費が高いため、東南アジアの留学も推進している。星野(2015)は、2013年の「海外との戦略的高等教育連携支援 AIMS プログラム」の実施により、アジアへの留学者数が増えてきていると述べている。さらにアジアに向けての大学での留学プログラムが少ない中、大学生個人レベルにおいて、近年フィリピンやマレーシアの私立語学学校への短期学習プログラム参加者数が増えてきていることを指摘している。日本学生支援機構(2014)が過去に行った留学者数の統計においても、「1ヶ月未満の留学者数」における北米への留学者は全体の40%台を占めるのに対し、東南アジアへの留学者は約80%を占めていた。その大きな理由として、留学費用は1ヶ月、渡航費、滞在費、研修費込みで約300,000円程度の安価で、1クラスの学生数が平均5名程度の小規模な授業が展開されているところにある。さらに、これらの安価で短期集中的な語学留学が可能な東南アジアの留学プログラムの多くは1週間単位での滞在が可能であるため、春・夏の長期休暇中に適しているという点も、多くの大学生を惹きつける理由と考えられる。筆者が行ったアンケート内の自由記述欄には、「アメリカ、ヨーロッパでのテロが心配なのでアジア圏への語学留学がしたい」や「欧米より安全かつ安いアジア留学の情報をもっと知りたい」といった意見が寄せられていた。

5-2. 留学の安全性

図3に示してあるように、留学をためらう理由の大きな理由として「テロなどの危険や犯罪が多いから」という点が挙げられる。留学未経験ゆえの不安は誰もが感じると言える。太田(2014)は2015年にフランスやベルギーで起こったテロや、未だ解決されていないイスラム系過激派組織による世界各地での紛争も学生の海外に対する恐怖心の増加に

深く関わっていると述べ、テロや地域紛争・感染症や自然災害などにより学生がより安全面に価値を置く傾向があると指摘している。田中(2010)は長期的な経済停滞に伴う雇用不安や、海外でのテロや感染症などへの不安から、海外で長期滞在して学位を取得し、その後就職するというビジョンを若者が立てにくい状況になっていると主張している。実際に本アンケート調査でも、「テロなどへの不安や危険が多いから」や「就職活動に影響する」といった理由の平均値は高い。アンケートの自由記述欄においても「海外テロや犯罪が心配なので留学先がどのくらい治安が良いか知りたい」や「留学先がどのくらい安全かもっと知りたい」、「留学に行くことで就活に遅れるかもしれない」などの現地の治安を懸念するコメントが述べられていた。したがって、安全面への理解や留学に関する情報共有のみならず、卒業期の遅れや就職活動への影響なども含め、留学により起こり得るリスクを事前に説明し、学生の不安を解消することが重要と考えられる。

6. ま と め

本調査の結果から、留学したい理由は「外国語が上手になりたいから」が5段階評価の平均値で4.61と最も高く、被調査者の留学したい理由は語学習得目的であることが分かった。また、海外留学を見送る理由に関しては「お金がかかるから」が5段階評価の平均値で3.90と最も高く、次に高かったのは「自身の語学力に自信がないから」(3.76)であった。外国語を学ぶ理由は「外国に行きたいから」が5段階評価の平均値で4.11と最も高く、次に平均値が高いのは「外国語で読み書きしたい」(3.94)であった。自身の語学力が留学をためらう理由に挙がっている反面、語学を学びたい理由に「外国人と友だちになりたい」や「外国語で読み書きしたい」等の理由の平均値が高かった。

今後の課題として、学生へ留学に対する意識調査をさらに行い、留学を希望する学生の意思決定に影響を与える要因の変化について検証する必要がある。また、留学に対する学生の認識や態度に影響を与える根本的な要因についての信頼性を高めるために、インタビューなどの質的データを取り入れることで、経済的かつ安全性を考慮した留学プログラムなど、学生のニーズに合った留学プログラムの改善に役立てたい。

引用・参考文献

- [1] 岩城奈巳.『学生が留学を決定する要因についての一考察.』名古屋高等教育研究 20 (2020): 413-424.

- [2] 太田浩. 『なぜ海外留学離れは起きているのか』, 東京: 慶應義塾大学出版会, 2011年.
- [3] 太田浩. 「日本人学生の内向き志向に関する一考察: 既存のデータによる国際志向性再考」『留学交流』, 第40巻, 2014年.
- [4] 田中梓. 「若者は本当に内向きになったのか?」ウェブマガジン『留学交流』, 第22巻, 第7号, 2010年.
- [5] 永田祥子. "対話を促す協働学習: 英語で学ぶアクティブラーニングに関する一考察." 関西大学高等教育研究 11 (2020): 21-29.
- [6] 日本学生支援機構. 「平成24年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」, 2014年. URL: http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data13_s.html
- [7] 星野晶成. 「日本人大学生の東南アジア留学の現状とその特徴—JASSO 統計からみえてくるもの—」『留学交流』, 第47巻, 2015年: 31-47.
- [8] 文部科学省. 『2013年版ものづくり白書』, 2014年, 第6章.
- [9] 文部科学省. 『「日本人の海外留学人数」及び「外国人留学生在籍状況調査」等について』, 2015年. URL: http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1345878.htm
- [10] Bikos, L. H., Manning, S. B., & Frieders, Z. J. (2019). Ready or not here I come: A qualitative investigation of students' readiness perceptions for study abroad/away. *International Perspectives in Psychology: Research, Practice, Consultation*, 8(2), 78-91. doi: 10.1037/ipp0000105
- [11] College Board. (2021). Trends in College Pricing and Student Aid 2021. Trends in higher education series. <https://research.collegeboard.org/media/pdf/trends-college-pricing-student-aid-2021.pdf>
- [12] Douglas, S. R., Sano, F., & Rosvold, M. (2018). Short-Term Study Abroad: The Storied Experiences of Teacher Candidates From Japan. *Learning Landscapes*, 11(2), 127-140. doi: 10.36510/learnland.v11i2.951
- [13] Educational Testing Service. (2021). 2021 REPORT ON TEST TAKERS WORLDWIDE: TOEIC Listening and Reading Test. <https://21606703.fs1.hubspotusercontentna1.net/hubfs/21606703/Worldwide2021.pdf>
- [14] JASSO. (2020). Survey results of the study abroad situation of Japanese students in 2020. Retrieved from <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/nippon/data/2020.html>
- [15] Lumley, D. (2020). Personal growth and change on study abroad programmes: Managing expectations and maximising outcomes Thesis submitted in accordance with the requirements of the University of Liverpool for the degree of Doctor in Education by [University of Liverpool]. doi: 10.17638/03116027
- [16] MEXT. (n.d.). About Tobitate! Retrieved from <https://tobitate.mext.go.jp/about/english.html>
- [17] Organization for Economic Cooperation and Development. (2013). 'Education at a Glance 2013', in *OECD Indicators*, Paris: OECD.
- [18] OECD. (2016). Education at a glance 2016: OECD indicators. Paris: OECD Publishing. doi: 10.1787/eag-2016-en
- [19] Ota, H. (2018). Internationalization of higher education: Global trends and Japan's challenges. *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, 12, 91-105. doi: 10.7571/esjkyoiku.12.91
- [20] Yonezawa, A., & Shimmi, Y. (2017). Japan's challenge in fostering global human resources: Policy debates and practices. In R. Tsuneyoshi (Ed.), *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education*. London: Routledge.

私立大学における海外留学プログラムの現状とその特徴 (中川)

参考資料 1

アンケート調査

(学生の海外留学についての意識調査)

あなたの学年にマルをつけて下さい 1年生 2年生 3年生 4年生

質問 1: 外国へ留学したい理由を教えてください。(5段階評価)

1: 全く思っていない

3: 思っていない

5: 非常に思っている

1. 外国語が上手になりたいから	1	2	3	4	5
2. 外国で学位が取りたいから	1	2	3	4	5
3. 外国で生活してみたいから	1	2	3	4	5
4. 将来の仕事のため	1	2	3	4	5
5. 外国の文化が好きだから	1	2	3	4	5
6. 外国人と結婚したいから	1	2	3	4	5
7. 外国へ行けるから	1	2	3	4	5
8. お金が稼げそうだから	1	2	3	4	5
9. 周りに外国語を勉強している人がいるから	1	2	3	4	5
10. 家族が外国と関係のある仕事をしているから	1	2	3	4	5
11. 家族に勧められたから	1	2	3	4	5
12. 外国人の友達が欲しいから	1	2	3	4	5

その他の理由があれば書いて下さい。

--

質問2：あなたが留学を見送る理由を教えてください。（5段階評価）

1：全く思っていない

3：思っていない

5：非常に思っている

1. お金がかかるから	1	2	3	4	5
2. 自身の語学力	1	2	3	4	5
3. 家族の世話をしなければならないから	1	2	3	4	5
4. 在学期間延長の可能性	1	2	3	4	5
5. プログラムに関する情報不足	1	2	3	4	5
6. 外国は恐ろしい国だから	1	2	3	4	5
7. 外国人は親切じゃないから	1	2	3	4	5
8. 就職活動に影響する	1	2	3	4	5
9. 交通機関が不便だから	1	2	3	4	5
10. テロなどの危険や犯罪が多いから	1	2	3	4	5
11. 地震などの自然災害が多いから	1	2	3	4	5
12. 留学の仕方が分からないから	1	2	3	4	5
13. 友達や仲間の参加度合い	1	2	3	4	5
14. 家族が反対するから	1	2	3	4	5
15. 留学するには年が若すぎるから	1	2	3	4	5

その他の理由があれば書いて下さい。

私立大学における海外留学プログラムの現状とその特徴 (中川)

質問3： 外国語を勉強している目的は何ですか。(5段階評価)

1：全く思っていない

3：思っていない

5：非常に思っている

1. 外国の人と結婚する(したい)から	1	2	3	4	5
2. 外国の文化、スポーツ、歴史、自然にふれたい	1	2	3	4	5
3. 趣味のため	1	2	3	4	5
4. 外国語で読み／書きしたいから	1	2	3	4	5
5. 周りの人が勉強していたから	1	2	3	4	5
6. 外国人と友達になりたいから	1	2	3	4	5
7. 国際関係の学問に興味がある	1	2	3	4	5
8. 外国語の発音はきれいだから	1	2	3	4	5
9. お金を稼ぎたいから	1	2	3	4	5
10. 周りの人に勧められたから	1	2	3	4	5
11. 外国に行きたいから	1	2	3	4	5
12. 家族／親戚が外国人と結婚しているから	1	2	3	4	5
13. 外国語を使う仕事がしたいから	1	2	3	4	5
14. 日本語が嫌いだから	1	2	3	4	5
15. 家の仕事で必要だから	1	2	3	4	5
16. 新しい事への挑戦	1	2	3	4	5

その他の理由があれば書いて下さい。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。